

IDESK のイベントに応じた設定方法 & 参考事例

本資料では、プロメテウスホールの同時通訳を活用した多言語対応の講演会やシンポジウムなどを行う際の、イベント開始前の通訳者コンソール(BOSCH DCN-IDESK-D、以下 IDESK)の設定方法について、具体的な事例などを用いながら説明します。実際のイベントは多種多様であり、ケース毎に入念に設定を検討する必要がありますが、検討の進め方などの参考としてください。なお、IDESKをはじめ、プロメテウスホールの同通設備の基本的な使い方、使用上の注意点などは、以下を参照してください。

→「プロメテウスホール 同時通訳設備の使い方マニュアル」

Installation Mode への入り方

IDESK の b + B 同時押しで Installation Mode の設定画面に入れます。

<> ボタンを押してノブを回すと選択肢を変えることができ、[] ボタンを押すと表示された設定が確定します。

設定項目には、System 全体に反映される設定と、当該 Desk 単体用の設定があります。

流れ

1. 設定を行う前に、当該イベントでどのような同時通訳を行うか、全体のイメージを明確にしておきましょう。図などを書いてイメージを整理しておくといいです。
2. 次に、6 台ある IDESK の任意の 1 台(どれでも OK)を使って、System 全体に関する設定を行います。
3. その後、当該イベントで使用する各ブース/IDESK を、1 台ずつ設定画面に入って回り、各 Desk の設定を行っていきます。
4. 各 Desk では、Installation Mode での設定が終わったら、設定画面から退出して通常使用の状態にして、B ボタンを押しながらノブを回して出力 B の Ch 設定を調整します。Auto-relay を使ってピボット言語を用いた通訳をする場合は、出力 B にはピボットとなる言語の Ch を設定します。また、通訳者の好みや必要に応じて、a~e ボタンを押しながらノブを回して、Preselected incoming channel を調整してください。

Installation Mode で変更しない項目

以下は設定項目は設置業者によるデフォルト設定ですので、原則として変更しないでください。

※ どうしても変更が必要な場合はイベント終了後に元の設定に戻してください。

- User language: ENGLISH
- Booth number
 - 同時通訳室: No.3
 - 同時通訳ブース A: No.1
 - 同時通訳ブース B: No.2
- Desk number: 各部屋、向かって左が 1、右が 2
- Language list: ENGLISH
- Microphone locks: None (Override、Interlock を選んだ場合はイベント後に戻してください)
- Speak slowly signaling: NO
- Help signaling: NO
- Speech timer: NO
- Microphone source: MICROPHONE

イベント内容に応じて変更する項目

以下の設定項目は、イベントの内容に応じて、変更してください。

- Number of channels: **通常 2～3** で設定
 - 注意: 設定画面上では最大 31 まで増やせますが、受信機側の仕様で、実際に使用できるのは最大 3 チャンネルまでです。**4 チャンネル以上には設定しないでください。**
 - 解説: 子機は Ch0 1 2 3 を選ぶことができますが、Ch0 は Floor の元々の音声で固定されており、訳出言語の出力先として選ぶことはできないため、同時通訳用に使用できるチャンネルは Ch1 2 3 の計 3 チャンネルが最大です。
 - ここで設定した数のチャンネルが、子機側の選択肢の数になります。聴講者側のチャンネル合わせ操作が面倒になるので、使わないチャンネルがある場合は Installation Mode で Number of channels を減らし、実際に使用するチャンネルだけに数を絞った方が良いです。
- Language channels: **通常 Ch1JAP、Ch2ENG、Ch3 その他の言語** に設定
 - 上記がスタンダードな割り当てですが、必要に応じて変更してください。
- Outgoing channel A: Auto-relay を使用する場合は、Auto-relay に乗らない言語となるので、**ピボット言語ではない言語を A に割り当ててください。**
 - Outgoing channel B は、設定画面で NONE か ALL のみしか選べません。
 - 実際に B を何にするかは、Installation Mode を終了した後、通常モードで、B ボタンを押しながらノブを回して変更してください。Auto-relay を使用する場合は、ピボット言語を B に割り当ててください。日本が会場の場合、ピボット言語は、必然的に、日本語、もしくは英語が用いられる場合が多くなるでしょう。
- Number of auto-relay booths: Auto-relay へ出力 B でピボット言語を出力するブースの数
- Auto-relay supply booths: Auto-relay へ出力 B でピボット言語を出力するブース No. の選択

実際の設定は、イベントによって様々ですので、イベント主催者は、イベントの内容、聴講者のニーズ、**活用できるリソース(重要)**などを踏まえて、具体的な同時通訳のオペレーションと、それに応じた IDESK の設定を考える必要があります。

以下に具体的な参考事例を挙げます。イベントが違えば、そのまま適用することは難しいですが、ご自身のイベントに適した設定を考える上での参考としてください。

参考事例①

イベント概要

日本とアメリカの歴史についてシンポジウムを、以下のような流れで開催する。

1. 司会が日本語で挨拶
2. アメリカ人講師が英語で講演
3. 日本人講師が日本語で講演
4. アメリカ人講師が日本人講師の講演を英語で講評
5. アメリカ人講師と日本人講師が対談
6. 聴講者から質疑応答

聴講者

- 日本人学生と留学生で、日本人学生の中には英語が得意な人もいれば苦手な人もいる。
- 留学生の一部は日本語が多少できるが、多くは日本語が苦手。英語はほぼ全員の留学生ができる。

リソース

- 日英ができる大学院生の通訳ボランティア 2 名がチーム通訳をしてくれる。
- 本人らは、同じブースでチームになって交代で通訳をするつもりでいる。また、質疑応答など臨機応変な素早い対応が必要な場面では、日→英、英→日を分担して同時通訳を行うつもりでいる。

発生する同時通訳

- アメリカ人講師の英語(&質疑応答の英語)を、日本語に同時通訳する。 for 日本人講師、聴講者
- 日本人講師の日本語(&質疑応答の日本語)を、英語に同時通訳する。 for アメリカ人講師、聴講者

同時通訳のオペレーション概要

- 同時通訳室(Booth No.3)のみを使用して、2 人ペアのチーム通訳で、日英双方向の同時通訳を行う。

Channel 割り当て

- Ch0: Floor(変更不可)
- Ch1: JAP
- Ch2: ENG

IDESK 設定

(Desk 1 と Desk 2 の設定は基本的に同一)

Installation Mode: System 設定 & Desk 設定

- Number of channels: **2**
- Language channels: **Ch1JAP、Ch2ENG**
- Outgoing channel A: **Ch1JAP**
- Number of auto-relay booths: **0**
- Auto-relay supply booths: **上記 0 のため設定項目自体なし**

その他はデフォルト設定のまま

通常 Mode での設定

- B ボタンを押しながらノブを回して、**出力 B を Ch2ENG** にする。

オペレーション

1. Floor key ボタンを押して Floor インジケーターが点灯していることを確認し、Floor で話されている言語を聞く。
2. Floor で日本語が話されている時は、出力 B を選択してから Micro ボタンを押して、Ch2ENG へ英語への同時通訳を行う。
3. Floor で英語が話されている時は、出力 A を選択してから Micro ボタンを押して、Ch1JAP へ日本語への同時通訳を行う。

参考事例②

イベント概要

事例①と同一だが、リソースとして、日英に堪能な学生 4 名が通訳を担当できることとなった。

同時通訳のオペレーション概要

- 同時通訳室(Booth3)は、英語→日本語の同時通訳に専念する。
- 同時通訳室 A(Booth1)は、日本語→英語の同時通訳に専念する。

Channel 割り当て

- Ch0:Floor(変更不可)
- Ch1:JAP
- Ch2:ENG

IDESK 設定

事例①と同じだが、同時通訳室(Booth3)と同じ設定を、同時通訳室 A(Booth1)の DESK でも行う。なお、それぞれの通訳の方向が決まっているので、お好みで、Outgoing channel A を、訳出する言語に設定してしまってもよい。(このケースでは Auto-relay は使用しないため、A B が逆でも特に影響はない)

オペレーション

- 2つの別々ブースに2名ずつ分かれて同時通訳を行うが、どちらのブースでも、操作は基本的には同じ。
- Floor の音声を聞いて、A/B ボタンで担当している言語 Ch の出力を選択してから Micro ボタンを押して、同時通訳を行う。

参考事例③

イベント概要

著名人をチェコから招いて、チェコ語で講演をしてもらう。日英チェコ語の3言語を用いて、以下の流れで行う。

1. 司会が日本語で挨拶と講師紹介
2. チェコ人の講師がチェコ語で講演
3. 聴講者からの質疑応答

聴講者

- 聴講者は主に以下の3つのグループがある。
 - 日本人:学生や一般の方々。一部、チェコ語専攻の日本人学生もいる。
 - 留学生:基本的に皆英語ができる、日本語ができる学生もいる。一部チェコからの留学生もいる。
 - チェコ人:大使館関係者や日本在住のチェコ人も参加する。そして講演者もチェコ語訳が必要。
- これらの聴講者を踏まえて、以下の Ch で同時通訳を提供する。
 - Ch1JAP(日本語)
 - Ch2ENG(英語)
 - Ch3CZE(チェコ語)

リソース

- 通訳者は、チェコ語学科の学生が 2 人(日本語とチェコ語の双方向の通訳が可能)、そして英語専攻の学内通訳ボランティア 2 人(日英間であれば双方向で通訳可能)が通訳として参加する。
- チェコ語⇄英語を直接通訳できる人材は今回は確保できなかった。 → **ピボット言語が必要**
(チェコ語⇄英語ができる人材がいれば、ピボット言語は不要で、3Ch を使ったシンプルな構成が可能)

同時通訳のオペレーション概要

- 日本語をピボット言語として、Auto-relay を使用して通訳を行う。
- Booth3 でチェコ⇄日本語、Booth1 で日本語⇄英語の同時通訳を行い、これら Booth の間では、日本語(Ch1JAP)をピボット言語として、それぞれ Auto-relay 用に用いる。
- よって、互いに Auto-relay を供給する Booth1、Booth2 の IDESK の出力 B には Ch1JAP を割り当てる。

Installation Mode: System 設定

Number of channels(使用するチャンネル数): **3**

Language channels(チャンネル割り当て)

- Ch1 JAP**
- Ch2 ENG**
- Ch3 CZE**
- ※ Ch0 は Floor: 変更不可

Number of auto-relay booths: **2**

Auto-relay supply booths: **Booth1、Booth3**

解説: Booth3 の出力 B Ch1JAP が Booth1 の Auto-relay 用として、チェコ→**日**→英の通訳で用いられる。
また、Booth1 の出力 B Ch1JAP が、Booth3 の Auto-relay 用となり、英→**日**→チェコの通訳で用いられる。

同時通訳室(Booth No.3) Desk 設定

解説: 日チェコ間の通訳 2 名が使用する。

Outgoing channel A: **Ch3 CZE**

Outgoing channel B: **ALL**

Installation Mode 終了後、通常 Mode で、B ボタンを押しながらノブを回して、**出力 B を Ch1JAP** に変更する。

同時通訳ブース A(Booth No.1) Desk 設定

解説: 日英間の通訳 2 名が使用する。

Outgoing channel A: **Ch2 ENG**

Outgoing channel B: **ALL**

Installation Mode 終了後、通常 Mode で、B ボタンを押しながらノブを回して、**出力 B を Ch1JAP** に変更する。

本番中のオペレーション

Floor key を押すと、自動的に Auto-relay と Floor が切り替わるので、適宜音声を聞きながら、同時通訳を行う。
質疑応答など、テンポ早く使用言語が切り替わるような場面では、同時通訳者は出力先 A B を適切に選択する必要があり操作が難しくなる。司会が、進行をゆっくりにしたり、使用する言語を事前に確認する間を設けるなどして、操作をする時間的なゆとりを作れると良い。

状況① 講師がチェコ語で講演

Booth3 がチェコ語を日本語に翻訳。出力 B から Ch1JAP に Auto-relay を供給。Booth1 は Auto-relay を受け取って、日本語を英語に訳して、出力 A から Ch2ENG で出す。聴講者は、チェコ語が聞きたい人はそのまま生音を、日本語が聞きたい人は Ch1JAP を、英語が聞きたい人は Ch2ENG で、それぞれその言語で聞くことができる。

状況②: 司会が日本語で挨拶

Booth3 は、Auto-relay は自動的に Floor になっているので、日本語を聞いて、出力 A から Ch3CZE に流す。Booth1 は、Booth3 が出力Aを使っていてBが使われていないので、Auto-relay は自動的に Floor になっているので、日本語を聞き、それを英語にして、出力 A から Ch2ENG を流す。聴講者は、チェコ語は Ch3 でチェコ語訳を、日本語は生音を、英語は Ch2 で英語を聞くことができる。

状況③: 会場の参加者が英語で質問

Booth1 は、Booth3 が出力Aを選んでいるはずなので、Auto-relay は Floor のままになるので、英語を聞いてそれを日本語にして、出力 B から Ch1JAP に流す。Booth3 は、Booth1 が出力 B を使っているので、Auto-relay に自動的に切り替わり、Ch1JAP を聞くことができるので、日本語を聞きながら、チェコ語に訳して、それを出力 A から Ch3CZE に流す。聴講者は、チェコ語は Ch3CZE で、日本語は Ch1JAP でそれぞれ訳をきき、英語は生音で聞くことができる。

以上